Popoki



ポーポキ通信 No.55 2010.3.20

popokipeace@gmail.com
http://popoki.cruisejapan.com

Popoki's Hot News!



ポーポキと一緒に平和をつくり だす集会』パレスチナ編 2010. 3.23 **神戸YMCA** 19:00-20:30

年末年始のポーポキ in パレスチナ報告です。写真やビデオを見て、みんなで議論などを予定しています。ぜひご参加ください。

CALL FIR HUMANITY Wadge!

Israel have you deplored? You

*ポーポ**キ通信**「ポーポ**キ** in パレスチナ2」 その2 pp.3-9



増刷! 「ポーポキ、平和って、なに色?ポーポキのピース・ブック】」の第4刷りができます! みんなでちからを合わせて売りましょうね。

* 売上のすべてはポーポキ・ピース・プロジェクトの活動費と して使われます



友だちからの報告! 宇留賀佳代子より

報告が遅くなりましたが、2月8日に、市内の中学で平和についての集会に招かれ、先日いただいていたポーポキの阪神淡路大震災15周年のメッセージの絵に、ポーポキのURLを入れてコピーしたものを、子供たちに配り、平和へのメッセージとともに、一緒に活動しませんか、というポーポキのメッセージを伝えました。

この中学の図書室にもポーポキの二冊の本を入れていただくようお願いもしてきました!!

以下、少ないですが、子供たちの感想です。

- ・ 広島と長崎がこんなに恐ろしいと知って、これをきっかけに広島の原爆ドームを見に 行ってみたいと思いました。
- ・ 今日の話を忘れないように、戦争の悲惨さを知って、だからこそ平和でいたいという 気持ちを持ち続けていきたいです。
- ・ 原爆の恐ろしさを知った日本は、原爆を使わないと思うし、使ってはいけないと思いました。・

ポーポキ in パレスチナ Part 2

目的:ポーポキを媒介にパレスチナに対する理解を深め、パレスチナで友だちをつくることです。

参加者: さとこ、塩延健志、平山幸太郎、ロニー

期間:2009.12.23-2010.1.4



私たちは、次のような疑問を抱きながら出発しました。

- · パレスチナ問題、すなわちイスラエルのパレスチナ占領は、なぜ解決できないのか?
- ・ ホロコーストを受けたユダヤ人は暴力の意味を良くわかるはずだ。それなのに、な ぜ暴力を繰り返すのか?
- ・ パレスチナ人は、自由な時間をどのように過ごす?パレスチナ文化とはどんなものか?
- ・ 占領下で暮らす毎日の現実とは?
- ・ パレスチナ人は、ポーポキに興味を持つのか?ポーポキは役に立つか?
- 私たちにはなにができるのか?

・ などなど

主な日程

12/24	ベツレヘム	到着、「羊使いの夜」 祭り参加、ミサ	ベツレヘムの美しい、感動的なクリスマスの体験 した
12/25	エルサレム	・旧市街を訪問	http://www.wac-maan.org.il/en/home
		・ワク・マン	旧市街に感動しつつ、エルサレム周辺に入植地
	ベツレヘム	(WAC;NGO)訪問、	がどんどん増えてきている現状を確認できた。パ
		(労働者相談センタ	レスチナ人を追い出そうとしている入植者の現
		-)	場にも行った。WAC でパレスチナ人とユダヤ人
		・キャンドル行進参加	労働者の共同の組織化活動について学んだ。
12/26	ベツレヘム	・ベツレヘム観光 &	Hebron Rehabilitation Committee
		アイダ難民キャンプ	http://www.hebronrc.org/docs/Annual2007
		訪問	En.pdf#
	ヘブロン	Mr. Waleed Abu	家が入植者の手に入らないように、HRC ではパ
		Halwa (HRC.)	レスチナ人が住めるように家を補修し、生活を支
		 Mariam Awad and 	援している活動について学んだ。実際、入植者
		Linda Jarayseh	がどんどん浸透してきている。友人のマリアムさ
			んとリンダさんにお会いできてとても嬉しかった。
12/27	エルサレム	ヤド・ヴァシェム(ホロ	イスラエル占領軍(IOF)の暴力的な現実を学
		コースト博物館) &	ぶ。12.26 の早朝に IOF によって殺害された方
	ナブルス	ナブルス市	の家を訪れた。
12/28	ヨルダン渓	ヨルダン渓谷。ヨルダ	http://www.jordanvalleysolidarity.org/
	谷	ン渓谷連帯委員会が	入植者の暴力的な進出により、パレスチナ人が
		案内。マリアムさんの	農地を手放さざるを得ない現実を見聞きした。
		お宅でご馳走!	素晴らしいご馳走と友人たち。
12/29	ラマラ	CARE で一日のセミ	Center for Applied Research in Education
		ナー、ベツレヘムの	http://www.care-palestine.com/
		病院を見学した	
12/30	ラマラ	オリーブ・ツリー・キャ	Olive Tree Campaign
		ンペンに参加!	http://www.jai-pal.org/content.php?page=1
		逮捕問題や囚人の権	
		利などの活動を行っ	http://www.addameer.org/index_eng.html
		ている NGO を訪問:	DCI:
	ビリン	Addameer (成	http://www.dci-pal.org/english/home.cfm
		人) ・ DCI (子ども) -	Bilin:
		ビリン連帯委員会で	http://www.bilin-village.org/
		非暴力抵抗について	「壁」、逮捕、刑務所、人権侵害、虐待・・・。
31/12	ハゲタオト	ゲット・ファイターズ博	Working with Jewish & Palestinian youth
-2/1		物館見学	http://www.gfh.org.il/Eng/
	ナハラル	ガリレ大学開催のセ	セミナー: イスラエルとパレスチナの二つのネー
		ミナー参加	ションと三つの宗教

二回目のパレスチナは、我らがベストドライバーの「おかえり」という言葉と笑顔で始まった。しかし、現状は決して好転しているわけではなかった。

今回私が終始戸惑ったのは、今私が立っている場所は、どこなのかという錯覚である。 間近に異様にそびえる壁は、私の感覚を麻痺させるには十分だった。

延々と続く壁に挟まれた道。いくつものチェックポイントを抜けるうちに、自分が今壁の内側にいるのか外側にいるのかがわからなくなる。世界で一番安全であると言われる壁の中のイスラエル入植地を歩いたとき、なぜだかものすごく怖くて緊張して、そこを抜けて壁の外のパレスチナの街に出たときの開放感!!排他的な閉鎖空間では、空気も時間もゆがんでいたように感じた。



今回は以前ほどの渋滞には遭わなかったが、どこから見られているかわからず、何時開くかもわからない閉じられた壁の前でただひたすら待っていると、ようよう開いた壁の所で、携帯電話で楽しげにおしゃべりに興じているライフルを持った女性兵士の一瞥。勿論なぜ待たされていたのかの説明はない。この壁を開く呪文はなく、救急車でさえ、壁の前でどれだけ待たされるのかはわからない。しかも、患者はイスラエル軍からイスラエ

ル管轄下の地域に入る許可を得ないとその先の病院には行けない。もちろん、通行制限があり、チェックポイントの所で患者の乗せ換え、状態の申し送りをしなければならないため時間がかかるのに救急車の意味がない。

分離壁に阻まれ、チェックポイントで止められる西岸 地区在住のパレスチナ市民の移動はかなり困難である が、入植者の移動はスムーズに行われるように、入植地 を結ぶ電車の工事が始まっていた。

ベツレヘムのホテルから空港までは、渋滞がなくチェックポイントがスムーズに開けば車で一時間。それの倍以上の距離があったイスラエル側のキブツから空港まで車で同じく一時間。ほとんど止められることのない軽い



壁で患者さんを西岸の救急車から エルサレムの救急車へ移す



チェックポイント(勿論壁はない)と高速走行でのドライブはドライバーの腕に関係なく、あまりにも快適だった。

今回の訪問中に、壁に書いたポーポキの絵は7枚。 前回と併せて、8枚になった。

イスラエルの道路は走りやすい

2009年12月の末、私は2回目のパレスチナ西岸地区を訪問した。今回の訪問の理由は2つあった。2008年の夏に一度目の訪問をしたときは占領の現実を目の当たりにし衝撃を受けたが、何がなんだかわからないうちに過ぎてしまったというのが正直なところだった。様々なところに訪問し人の話を聞き占領の実態を実感するたびに、「なぜこのような状況になってしまったのか?」



という疑問は深まるばかりだった。今回は占領の現状や占領下の人々のことをもっと知りたいと思ったことが訪問のひとつの理由だった。そしてもうひとつ、私は修士論文で「壁」の影響について書こうと考えていたため、実際に「壁」がある中で生活しているパレスチナ人に話を聞きたいという理由もあった。

ナブルス(西岸地区のひとつの都市)の夜

「壁」を見たときはやはり強烈な存在感に圧倒されたが、前回初めて目にした時よりは衝撃は少なかった。自分でもこの変化に少し驚いたが、「慣れる」ということなのだろうか。考えようによっては「慣れる」ことは大事なことなのかもしれない。なぜなら、私が最初に「壁」を目にした時のように、ここに住む人々は毎日打ちひしがれていたらとても生活は続けられないからだ。そうは言っても、「壁」は土地、そして人々を分断し日々パレスチナ人を苦しめている。

CARE という「平和教育」を実践しているパレスチナの NGO の代表、Dr.ガッサンに「壁」につい



て話を聞く機会があった。彼は自分をイスラエルに住む人と仮定して述べてくれた。「壁」はイスラエル人の恐怖を吸収するスポンジみたいなものだと。しかし、実際はイスラエルの子どもたちも遠足にいくことができなかったり、抱き合う夫婦の夫の手には常に銃が握られているとも言った。「壁」はイスラエルの人々を守るはずが、逆に恐怖を煽ってしまっているのである。また、パレスチナ人としてはこう述べていた。「壁」はパレスチナ人のユダヤ人に対する嫌悪感をさらに助長するものになっていると。今では「壁」をはさ

ベツレヘムから見た壁

んでユダヤ人とパレスチナ人の交流はほとんどなくなってしまっている。隣人を知ることができない。物理的だけでなく精神的にもユ

ダヤ人とパレスチナ人は分断されているのである。

前回よりもパレスチナに関する知識を伴って訪問したこともあり、私はパレスチナ人のガイドさん や訪問先の人々が話してくれることがより鮮明に想像できるようになっていた。そのために、前回 の時よりパレスチナの状況の話を聞く度に、私の心はダメージを確実に受けていった。

パレスチナ滞在最終日は私にとって重要な日だった。午前中、イスラエル軍に逮捕されたパレスチナ人の子どもを法的な側面からサポートする NGO や、パレスチナ人の囚人をサポートする

NGO を訪問した。そこでは、イスラエル軍による容赦ないパレスチナ人に対する弾圧について説 明をしてもらった。非暴力抵抗でさえ厳しい弾圧を受け、死者まで出ている状況を知ることができ た。私はこの時、非暴力抵抗でさえ弾圧される状況で、何ができるというのか?占領下のパレス チナに占領を覆す希望などあるのか?と、とても絶望的な気持ちになり、昼食が喉を通らないほ どだった。

その気持ちのまま、午後には「壁」のせいで生活に大きな悪影 響を受けているビリン村を訪問し、私はその村で「壁」に対する 非暴力抵抗を指導するイヤードさんに話を聞いた。あらかじめ 質問表は用意していったのだが、彼と話をしているうちに自然と 非暴力抵抗を続けている理由や意味について聞いていた。「な ぜイスラエル軍は非暴力抵抗でさえもこんなにも弾圧するの か? 非暴力抵抗の次にあるのは何か?」



イヤードさんとタケシ

彼は「イスラエルは自分たちが占領をしている事実を世界に知られるのを恐れている。だから弾 圧するんだ。非暴力抵抗の次にあるのは、世界の人々の連帯だ。国ではなく「人々」の連帯が必 要だ」と言っていた。そして「ここは私たちの土地であり、私たちの生活の場である」という言葉を 何度も強調していた。最後には「私は子どもたちの未来のためなら、自らの血を流すことを厭わな い」と言っていた。私はこれらの力強い言葉に救われる気がした。非暴力抵抗には人々の強い思 いが込められていることがこの時にわかったのである。非暴力抵抗は地味かもしれないけれど、 大きな力になる可能性があるのではないかという思いが生まれたのはこの瞬間だった。



彼の言っていた世界の人々の連帯が成せるかどうかは 私たちにかかっている。私がパレスチナのことについて 論文を書いたり、このような感想を書いたりするのは小さ いことかもしれない。しかし、他の人に「伝える」ことは大 事なことでもあり、現地に行った私の義務でもある。「無 関心」を「関心」に変え、関心のある人には「現実」を伝え ることで占領の終結を願う「想い」を広げていくことに貢 献できればと思う。

ビリン村のイヤードさん



トルコ風呂で出会った子どもたち 写真:平山幸太郎



写真:平山幸太郎

2009年12月22日から12月31日まで、パレスチナへ行ってきました。個人的には初めての海外、しかも中東であることから、かなり不安な旅でした。今振り返ってみると、「この旅に参加して、本当によかった」、そう感じています。現地では、様々な場所に行

かせてもらいました。たった数日間でしたが、多くのことを見て、聞いて、感じてきました。その中でも、僕自身が最も記憶に残ったことを報告させてもらいたいと思います。

一つ目は、ヘブロンというところでの出来事です。ここでは、「HEBRON REHABILITATION COMMITTEE」という組織を訪問させてもらいました。この組織では、住宅を修理したり道路を補修したりし、さらには子どもたちへの職業訓練などの活動をしています。そうすることで、イスラエルからの入植拡大を阻止するのが目的です。



そこでは、組織の活動をパワーポイントのスライドを使って説明して頂きました。その中に、今回の旅で僕が最も衝撃の受けた写真がありました。イスラエルから入植してきた女性と子どもが、パレスチナのおばあちゃんに暴力を振るっている写真です。信じられませんでした。言葉にできないほどの衝撃を受けました。どうしてこんなことが起きているのだろう、そう思いました。イスラエルによるパレスチナの「占領」の現状を初めて認識した瞬間でした。

次の日、ナブルスという町へ行きました。僕たちがナブルスへ入る前日、3人の方がイスラエル軍により殺されました。入植者を殺したかもしれないという、確かな証拠も無い理由です。危ないから行くべきではないという意見もありました。それでも現状を知りたいと思い、僕たちは行きました。

ナブルスでは、殺された方の家に行かせてもらいました。そこでは、殺害時の状況を詳しくお聞きすることができました。憤りしか感じませんでした。遺族の方々の訴えに対し、何もできない自分。何が正しくて、何が間違っているのか。様々なことを考えました。複雑な気持ちでした。どうしてこんなことが起きているのか。全く分かりませんでした。

こんな状況でも、多くの希望を見いだすことができました。多くの子どもたちの存在、

そしてその子どもたちの可能性を信じている大人の行動です。現 状は本当に信じられないことばかりです。しかし、お世話になっ た方々の笑顔を見たとき、現状は変えられる、そう感じました。

帰りの飛行機で、僕にできることは何だろう、と考えていました。正直、今でも答えは出ていません。しかし、現状を伝えることはできます。今はそんなことぐらいしかできません。僕にでき



イスラエルとパレスチナの 境にある小学校

ることは、本当に限られています。それでも伝え続けたいと思います。現地で感じた希望を信じて。

最後に、現地でお世話になった方々、今回の旅に誘ってくださった先生、また後押ししてくださった方々に、心から感謝します。 ありがとうございました。

http://popoki.cruisejapan.com popokipeace (at) gmail (dot) com

ロニー・アレキサンダー

今年も壁にポーポキを描いた。たくさん描いた。ずっと描き続けたかった。怒っているポーポキが「No Occupation!」と叫んだり、優しそうなポーポキが「We support our Palestinian friends」と言ったり。自分の抑えられない怒りや絶望感、無力感を表現したかったと同時にパレスチナ人の友人たちに少しでも希望を与えたかった。そして、自分に対する誓いでもあった。普段の生活に戻ってもパレスチナのことは忘れない、と。ポーポキの周りにみんながそれぞれの名前を書いてくれたのはうれしかった。彼らもきっと忘れないだろう。





再度パレスチナに行くのに年末を選んだのは、航空運賃や自分たちのスケジュールもあったが、クリスマスに行けば、基督教・イスラム・ユダヤ教がみんな「聖地」と主張するこの地域のもう一つの顔が見えるかもしれないと思ったから。もともとクリスチャンが多いベツレヘムでのクリスマスは素敵だった。街をあげての祭典だ。宗教を問わず市民のために開催されたシェパード・ナイト祭、キャンドルの行進、パレードなど。数々のイベントにサンタ服やサンタ帽姿の子供た

ちは可愛かった。

今回は、企画の段階から前回より目的意識がはっきりしていたし、昨年お世話になった Siraj Center for Holy Land Studies*のミシェルさんやジョージさん、ムナさんが私たち を知っていたために、いっそう適切なアドバイスをくれた。おかげで 2008 年とはまた違っ

た味の旅行になった。占領されている地域の現状を学ぶだけではなく、その中で生活している人々のことをより知ることができ、人間としてのつながりを感じた。うれしかったことは、もちろん、2008年に出会えた友人に再開できたことだ。そしてもう一つは、難民キャンプの文化センターやユースセンターなどで聞いた話だ。ここでもポーポキ・ピース・プロジェクト同様、全身を使って平和を想像することから平和の創造を始めようとしているようだ。パレス



ベートサフールの YMCA で開催された 「羊飼いの夜」まつりに子ども向けのプ ログラムもありました

チナでもポーポキには役割がある んだ!

衝撃的なことはもちろんたくさ

んあった。IOFによって殺された方の家を訪れたとき、三方向に壁に 囲まれている村で生活者の話を聞いたとき、ヨルダンバレーやヘブ ロンで入植者の暴力的な行動を見聞きしたとき…。心を開いてくれ た人々に心から感謝する。彼らのために、今の私にできることは自 分の周りの人に占領の現実を丁寧に説明すること以外になにが

ナブルスの旧市街の至るところに犠牲になった 3 人のポスターが貼られた

あるのだろうか。今年も壁にポーポキを描きに行くような気がする。

今回はヘブロンのユダヤ人地区を歩くことになった。そのいきさつも複雑だが、パレスチナ人ガイドと分けられて、ユダヤ人地区を通り抜けるのに私たち4人だけで約20分歩いた。その20分はどんなに長かったか!「守られている」はずの私たちは極度に緊張して、10メートルごとに銃をむき出しにした10Fの軍人に、私たちがそこにいる訳を聞かれ、自分たちでも良くわかっていないのになんとか説得し、通してもらった。とても怖かったが、パレスチナ人は毎日これを体験しているのだ。いや、彼らは「敵」とされているので、私たちが感じたような恐怖より何倍も怖いだろう!そこでまた、暴力の連鎖が実感できた。暴力化された世界には暴力的な解決策が先に出てしまうのだ。パレスチナ人の非暴力抵抗の難しさや彼らの勇気に再度、感銘を受けた。

良好の最後にイスラエルの大学が主催したセミナーの一部に参加した。イスラエルをボイコットする活動を支持しながらそういったセミナーに参加する自分をどう考えたらよい

かと悩みながら。でも、行って良かったと思う。兵役を終えた若者やこれから兵役に行こうとしていた若者と話ができたことはその理由の一つだ。彼らの側の考えを知ることは私にとってよかったし、彼らが例外的だったか、西岸やガザにいないから冷静なのか、IOFや入植者がパレスチナで行なっていることを真剣に悩んでいるように見えた。もう一つ良かったと思うことは、各国から来たセミナー参加者や、ユダヤ人スタッフに写真やビデオを取り入れながら、私たちが見てきた占領の現実を



話すことができたことだ。各国から来た参加者は、参加目的を聞いたとき、「イスラエルとパレスチナ双方の考え方を知ることだ」と答えたのに、彼らはパレスチナのことを知ろうとしているようには見えなかった。あまりにも知らなさすぎだった。だから話ができてよかっただし、彼らは私たちの話に耳を傾けてくれた。

パレスチナでの体験を話す度に、自分の気持ちの整理ができ、体験の意味や意義がわかる。これからも語り続けていきたいと思う。そして、占領が終わるまでポーポキの絵を壁に描き続けたい。一日も早く占領が終わりますように、と。



* シラージュ・センター http://www.sirajcenter.org/

** BDS キャンペーンについては、例えば次の URL を参照:

Boycottill:

http://boycottil.seesaa.net/article/143192435.html JIA BDS links:

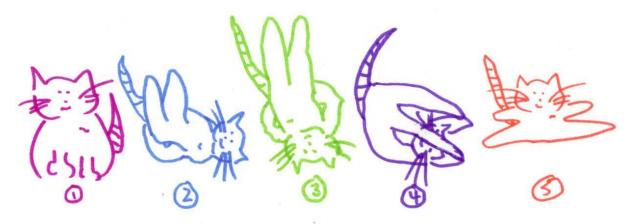
http://www.jai-pal.org/content.php?page=260

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 22

季節が良いのにしんどい!ポガでリフレッシュしましょう!

- 1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
- 2. では、横になって、足としっぽを上げましょう。手はお尻にね。
- 3. 次に手をお尻を支えながら足を上へ伸しましょう!
- 4 さらに足を顔の上まで持ってき…。できる方は手も頭の上へ伸して足をタッチ!
- 5. できた!できた!できたポーズをどうぞ!



第 22 回目のポガ・レッスンはこれで終わります。少しリラックスできましたか?毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低 3 分間練習しましょうね。



ご一緒にいかが?

- 3.23 ポーポキと一緒に平和を作り出す集会:パレスチナ編 ポーポキ in パレスチナ 報告 神戸 YMCA 19:00-20:30
- 4.11 「ボランティアとは?」神戸大学新入生のための講演(ロー)神戸大学内
- 4.13 (火) ポー会 19:00-21:00 神戸 YMCA 304 号室
- 4.18 「ポーポキ、平和って、なに色? 世界を舞台とするポーポキ・ピース・プロジェクト ワークショップ主催:子どもと9条を守る会。13:30~。神戸市勤労会館 307 問い合わせ: TEL&FAX 078-991-9080 (角屋)・078-882-4388 (広木)
- 4.23 「ポーポキ、人間って、なに色?」(仮代)神戸大学。講演会。
- 5.21 大阪市西成区子どもの里で読み聞かせ。16:00頃から。
- 6.6 灘チャレンジ参加(未定)
- 6.13 西宮母親大会でワークショップ。詳細は次号。

ポーポキの友だちからの案内:

3.25-4.8 「マザー・テレサは生きている」 神戸新聞社ギャラリー 入場無料 詳 し く は 事 務 局 へ : Tel:(神 戸 YMCA 内) 078-241-7201; http://www.kobeymca.or.jp/mother teresa/

ポーポキinメディア

- ・ [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 'Heart Lines' 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- * "Human Rights, Popoki and Bare Life." *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46–63 (http://www.infactispax.org/journal/)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色?ロニー・アレキサンダーを迎えて」 『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- · 「友情」第2号 2009.11 伊丹市国際·平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- ・「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人 教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」 奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- ・「友情って・・・考える絵本」 朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて[~]人間と、ねこと、そして自分と~」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- ・「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色?ポーポキのピース・ブック 2」」(レベッカ・ジェニスン) p.3
- ・「猫を通して平和を考える 絵本の第2弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!!プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 http://www.kizzna.fm/ 録音番組をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。 詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」 エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8(アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル 制作」 2008.10.8. 10 面
- 「社説 終戦の日」神戸新聞 2008.8.15
- ・ 中国新聞「核廃絶への視点」 2008. 7. 27 (核抑止論について・・・。3時間!?!にわたる取材で一生懸命にポーポキのことを話したのに・・・。)
- ・ (社)ひょうご部落解放・人権研究所発行の機関誌『ひょうご部落解放』(2008.6月(夏)に「人権宣言 60 周年」のポーポキ・ポスターの一部も載っていますよ!
- * ポーポキ通信のバックナンバー: http://popoki.cruisejapan.com/archives.html

私にとってのポーポキ

PEACE

神戸大学大学院 国際協力研究科 平山幸太郎

僕にとってポーポキとの出会いは、大学院へ通いだしてからでした。アレキサンダー先生のゼミに所属したのがきっかけです。先生の活動自体をあまり知らなかったため、様々話をさせてもらうなかで、深い関心を抱くようになりました。

大学院に入学するきっかけは、様々あります。一番大きなきっかけは、「世界平和に1ミリでも貢献したい」この想いでした。しかし、大学院で研究を進めると、如何ともしがたい現実にぶち当たります。そこでポーポキは僕を助けてくれます。僕に希望を与えてくれます。

実際、去年末に参加させていただいたイスラエル・パレスチナへの旅では、そういった 現実にぶち当たりました。その反面、小さいかもしれませんが、多くの希望を見いだすこ とができました。そこで見つけることのできた、小さな希望を信じて、大学院での研究を 完成させようと思います。

僕にとってポーポキという存在は、ともに「平和」を目指すパートナーであると感じています。僕ができることは限られているかもしれません。しかし、ポーポキと一緒なら達成できる、そう信じさせてくれる、大切な存在です。

印象に残った写真 平山 幸太郎 ナブルス訪問前日に殺された方々





電気フェンス



さらにご協力ください!





ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色?ポーポキのピース・ブック1』(エピック、2007年)、『ポーポキ、友情って、なに色?ポーポキのピース・ブック2』(エピック、2009年)を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワー

クショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳(『ピース・ブック1』は既に10ヵ国語に翻訳されている)、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさりたい方はぜひご参加ください。(ポー会の開催については、ポーポキ通信の「ご一緒にどうぞ」の蘭をご参照されたい。)

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いいたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へ お問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック(TEL: 078-241-7561·FAX: 078-241-1918)へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト popokipeace(at)gmail.com



http://popoki.cruisejapan.com

郵便振替口座番号 00920-4-280350 ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350 ロ座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!